169 リモージュの苔むす日本庭園（2023 年６月 20 日）

リモージュの静かな郊外に、フランシス・レオボンさんが作った日本庭園があります。40 年来の盆栽愛好家であるレオボンさんは、自宅の庭を落ち着いた日本庭園風にすることにしました。レオボンさんは、日本に一度も行ったことがありません。インターネット情報から日本庭園の特徴を学び、2015 年から仲間と一緒に少しずつ整備をしてきました。

レオボンさんの庭に入ってまず驚いたのは、一面に広がる緑の苔です。フランスで、石を覆う苔を見たことはありましたが、これほどまとまった面積の苔を見たのは初めてでした。庭の地面や樹木にも苔が広がっています。レオボンさんによると、全て天然の苔です。リモージュ周辺の気候が、苔の生育に合っているようです。

苔とは、主として地面や石を這うように成長する植物です。フランスでは、最近はインテリアとして苔玉を見るようになりました。日本では自然の中で苔に覆われた地面や石を見ることが多く、庭園や盆栽にはしばしば苔が使われます。苔の美しさや見た目が鑑賞の対象となり、苔を育てる人もいます。近づいてよく見ると、苔にも様々な種類があります。苔は、日本庭園の雰囲気を作り出す一つの要素と言えます。レオボンさんの庭にいると、日本にある伝統的なスタイルの庭園を見ているような気持ちになりました。

さらに庭を歩くと、石灯篭が目に入ります。庭の奥には池があり、池の辺りに富士山をイメージした小さな山があります。

池の周りの小道を進むと、茶室が建っています。この茶室は、1999 年の嵐（1999 年 12 月 26 日にフランスの広範囲を襲い、甚大な被害を出した大規模な嵐。この時、多くの木が倒れた。）のときに倒れた木を使って作られています。さらに、池の反対側には石庭をイメージし

た庭もあります。石庭又は枯山水とは、水を使わずに、石や砂で庭を表現する日本庭園の様式の一つです。京都にある龍安寺の石庭が有名です。龍安寺の石庭には 15 個の石がありますが、どこから見ても必ず一つは見えないように配置されています。初春には椿の花が咲き、秋にはモミジが赤く色づきます。レオボンさんの庭園には、日本庭園の特徴を示す秘密がいくつも隠されています。

　レオボンさんの庭園は評判となり、見学を希望する人が増えました。そこで、2019 年に Fukutsu-en 協会を立ち上げ、春と秋の年２回、人数限定の予約制で見学者を受け入れています。レオボンさんは、来訪者には庭園の中で日常とは異なる空間を楽しんでほしいとおっしゃいます。庭の整備はまだ続いています。どのような日本庭園に変化していくのか、楽しみにしています。
Association FUKUTSU-EN:fukutsu.en@gmail.com